公認競技会のあり方審議会《第２回》議事録

〇日　時　2022 年 11 月２日(水)　20 時
〇会　場　渋谷区スポーツセンター
出席審議会委員（敬称略）:
小野寺、近藤（辰）、澤口、竹村、礒、茂木、佐藤、柳川、林、小杉

Ⅰ．各ブロックからの情報共有

西ブロック：
・役員募集や設営に関して固定されたメンバーで進められているので個人の負担が大きく、今後のことを考えると対策が必要。
（競技委員長・審判長・DOS は公募し、審判員は輪番）

南ブロック
・試合運営にかかわる協会が限られていてメンバーが固定されている。
・当番制にすることが理想だが浸透させるのに時間を要する。
・人材不足を補うため 1 級審判員の増員を進めているが、全ての協会から人員が出せる体制が必要。

東ブロック
・輪番で担当区を定めていて毎年変えている。担当区の責任者が役員の募集、エントリー受付等を行っている。
・担当区の責任者が役員を募るため担当区を主体とした役員導入をかけているので、担当区内での経験者を増やすことはできているが、1 年交代なので前半は混乱し慣れたころに担当区が変わる状況がみられる。
・今年度の夢の島は、都ア協主体で実施されており、警備員の不足を江東区アーチェリー協会に補っていただいた。
・夢の島のタイマー時計は、他の競技場と異なるメーカーのため接続に戸惑う役員がいる。

北ブロック
・DOS、審判長は輪番制を取っているが、メンバーは限られている状況。
・輪番制のため DOS、審判長の経験が少ない方がおり何をしたら良いか戸惑う場合もある。
（役割を理解してもらうための文書は作成しているが、継続した学習が必要。（担当毎のマニュアルを作成する事が望ましい））
・登録者は多いが競技中心の選手が多く、審判参加に消極的な方が多い。
・射場の問題：アンカーが埋まって見にくい。信号機のケーブルの接触不良
（上記対応は来年 3 月行うが実施が平日のため参加者が限られる可能性が高い）
・ロープが伸びて立ち位置マーカーの間隔が広がってしまう。
（新しい物に取り換える予定）
・射場のマニュアルはあるが、更新が必要。
・審判の実施経験のない方は当番区の DOS、審判長の際に経験を積めるようにしている。
・エントリー受付は来年度から担当を交代する予定。
・1 級審判員の取得を進めているが理解いただけない状況がある。

高体連
・引率教員が当日役員を分担して実施している。審判資格ある方は審判、ない方は警備等。
・現職での１級審判取得者は１人しかおらず、１級審判員が足りていないのが現状。
（2 級審判員取得者に１級取得を依頼している）

Ⅱ．情報共有で確認できた問題点

１．役員の固定化（業務を理解している経験者が年々少なくなることが問題）
２．人材育成の必要性

Ⅲ．各問題点について

１.役員の固定化の対策としての輪番制について
各協会に責任を持たせる観点で効果的と思えるが、以下の問題点もある。
・輪番制でもメンバーは固定されてしまう。
・エントリー受付は、経験が必要のため継続（2 年程度）してできる担当者が必要と思われる。
・輪番制の方法について都ア協でやり方を固定するのではなく各ブロックで好ましい方法をとり問題点を解決していけばよいのではないか。

２．人材育成について

・審判の声掛けが必要で 3 級取得者を増やしていく必要がある。
・新規 3 級取得者の初期教育が重要と思われる。

３．その他、都ア協理事の競技会へのかかわりについて
どのような経緯で理事に選ばれたかでやる気に差が出ていると思われる。
理事の選出に苦労している協会もがあるが、都ア協役員は競技会の運営にどのように関わっていくのかについて理事選出の際に意識づけも必要と思われる。

Ⅳ．今回の審議会で確認されたこと

・ブロック制は維持していくべきことが確認された。
・射場の運営は地元のブロックで行う。
※ブロック制で行うことに関しては異論はなかった。

Ⅵ．次回（12 月 7 日）審議会

議題
・競技委員長、審判長、ＤＯＳの輪番制について
・役員の公募について
・夢の島　射場の運営方法について

時間があれば
・集計システム（IANSEO）について
・個人エントリー方法（ＫＩＴＯＳ）についての情報共有

〇配付資料
ブロック制についての集計結果